

川の本

2005 春の号 No.58



KAPPA no GAKKO

私たちのくらしとダムのやくわり

(ダムのやくわりは、なにを目的もくてきにしているのだろう)

こ ちよすいち
ダム湖 (貯水池)

大きな地震でもこわれないように
つくられています

ダム

すいりょくはつでん
水力発電

ダムから流す水ながを利用して
電気をでんきをつくります。

ダム湖に水をためて
川があふれないでいどに
水をだす

うひひひ
おおあめ
大雨だぞう

ちすい
治水のやくわり

ダムには洪水こうずいをやわらげる目的もくてきがあって、
大雨おおあめできゆうに川の水かわみずがあふれ
でないように、よぶんな水をひととき
ダム湖こにとどめて、流れる水の量りょうを調節てんせつ
するやくわりをします。

ダム

おおあめ みず
大雨の水がいきにおしよせてきたぞ
あのあたりにダムが
あれば水をためて
洪水こうずいをふせげるのに

ひやあ
こんなことになる川には
ダムがひつようだよ





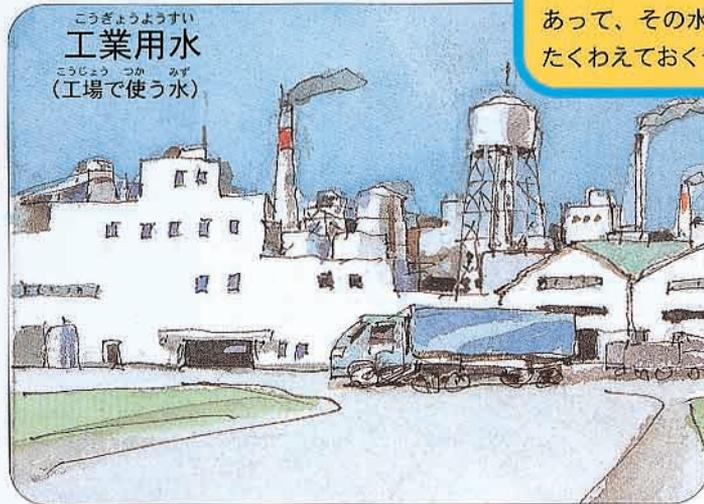
のうぎょうようすい
農業用水
たつかみず
(田んぼに使う水)



せいかつようすい
生活用水
せいかつつかみず
(生活に使う水)

りすい
利水のやくわり

ダムは私たちが生活に使う水道水や田んぼや工場にも水をおくる目的があって、その水をきらさないように、たくわえておくやくわりもしています。



こうぎょうようすい
工業用水
こうじょうつかみず
(工場で使う水)



すいりょくはつてん
水力発電
いえつかでんき
(家で使う電気をつくる)

ちよきんぼこ
ダムは水の貯金箱

水はわたしたちのくらしには、かかすことができないたいせつな資源です。ダムはこのたいせつな水をたくわえます、そしてひつような時に、ひつような分をだします。まるで水の貯金箱ですね。



あそべるダム

ダムによっては、公園やゆうえんちがつくられていたり、ゆうらん船にのれるところなどもあって多くの人たちにたのしまれています。

たもくてき
多目的ダム

ダムによっては目的が1つの場合もありますが、治水と利水など複数の目的をもったダムがあります。そのようなダムを多目的ダムといいます。

しぜんかんきょう
自然環境のやくわり

ダムには川の環境を守る目的もあって、自然にとってひつような水の量を流しつづけるやくわりをはたします。

お天気つづきでもきれいな水が流れてくるのはダムのおかげだようれしいなあ



かいでんぶち 開殿淵

秋田県 松木内川（雄物川水系）

むかし、いまの仙北郡西木村門屋というところに、魚とりの名人といわれたじいさまがおった。じいさまといっても体はがんじょうで、川にもぐってサケやマスなどの魚をつくのがとくいだった。じいさまの家のそばには松木内川が流れているが、そこはふかい淵になっている。ある日のこと、いつものように魚とりにやっしてきたじいさまは、じまんのヤス（先に鉄のヤリがついた魚をつきさす道具）をにぎりしめて川へとびこんでいった。すみきった水のなかには、たくさん魚がきらきらと、かがやきながらおよいでいる。

「しめしめ、きょうはでっかいサケをつかまえるぞ」

じいさまは、はりきって淵のふかみへともぐっていった。ところがふかいところにゆくと魚がいつびきもいなくなった。しかたなく、じいさまがあきらめてもどろうとしたときだった。どこからあらわれたのか、いままで見たこともない大きなサケが目まえをすうと、とおりすぎてゆくではないか。

「やいや、こんな大もの、にがしてはなんねえ」

じいさまは、あわててヤスを「えいっ」とばかりに大サケめがけてつきだした。ヤスはサケの尾のあたりにささったが、おこったサケがすごいちからで尾をふたので、はねとばされたじいさまは水のなかできりきりまい、気がついたときには、じまんのヤスもどこかへとばされていた。

ヤスをとられてはどうにもならない。じいさまはしかたなく川からあがったがくやしくてならない。サケをにがしたことよりも、つかいなれたじまんのヤスがなくなることがなさけない。

「あのヤスだけは、なんとしてもとりもどせねばならんわい」



じいさまはなんどもなんども川にもぐってはヤスをさがしまわった、ゆうがたまでさがしたがまだ見つからない。

「ひよつとして大サケのやつ、しつぽにヤスがささったまま淵のそこへにげたのかもしれないぞ、ようし、こうなったらどこまでもおいかけてやるぞ」

じいさまはいつほら息をすいこむと、ふかい淵のそこをめぐらしてもぐっていった。淵のそこはくらくくよく見えぬ、それでもあきらめずもぐって行くところらふしぎ、くろい岩がけからひかりがさしてはいるではないか。

ちかづいて見ると大きな岩にあながくりめかかっている、あなの中はへやになっている、ひかりはそこからもれていた。ふしぎにも川の水はあなの中へは入らず、ロウソクがあかあかとともっていて、おくのほうからお経をよむこえがする。

「これはいったいどうなつたものじゃあ」

じいさまはおそろおそろあなの中をのぞきこもつとした、そのとき

「だれじゃあ、のぞくとほぶれいな」

と、どつかいこえでどなられた。

「ひやあ、わ、わたしは門屋のものです、あやしいものではござりません、ど、どにかおゆるしを」

「あやしくないものがなにしにきたんじゃあ」

「はい、さきほど、どつかいサケにだいじなヤスをとられさがしにきました」

「ふふふぞつか、じつはな、そのどつかいサケはこのわしじゃ、わしはもと門屋の開殿寺におつた開殿坊じゃ。むかし松木内川に大水がでて寺がながされたのをし

つとるかな、そのときわしは寺をたてなおそうと村むらめめりあるいたが、金があつまらず寺をつくりなおせなかつたんじゃ。あまりにもくやしくて、わしはサケにすがたをかえてこの川の主に、それいらいわしは金ものが大きらいな

「そつとはしらず、もつしわけないことをいたしました。これからはヤスなど金

ものをけつて川にいれないとちかいまする」

じいさまがなんどもあたまをさげてあやまっていると、あなのおくからこわい目をした大坊主が、じいさまのヤスをもつてあらわれた。

「ようし、それではヤスをかえしてやるがもう二度とこの川で金ものをつかつてはならんぞ」

そういつて開殿坊はあなのおくへすがたをけた。やつとこのことでじいさまが川からあがつてふりかえると、淵のそこはひかりはすでにきえていた。

このことがあつてからというもの、じいさまだけじゃなく村人たちもけつて金ものをもつて淵にちかすかなくなった。そしてだれいともなくこの淵は開殿淵とよばれるようになったという。



開殿淵と松木内川(秋田県仙北郡西木村)と雄物川

お話では、開殿淵は松木内川にあるとされていますが、現在、西木村門屋あたりを流れる松木内川には開殿淵という淵は見当たりません。村役場で調べても「昔は深い淵もあったらしい」「くらのことしかわかりませんでした。

しかし、門屋から上流にむけては、いくつもの深い淵があります。この清流には今でもイワナ、ヤマメ、カジカなどの魚が多くすんでいます。昔の人々にとって川魚は大切なタンパク源です。ヤスを扱う魚とりの名人もいたことでしょう。お話には大きなサケがでてきますが、数は少ないようですが今でもサケは元気にあがつてきているとのこと。

さて、松木内川は長さ約33キロメートルの清流です。冬はすっぽり雪につつまれる地域ですが、春から夏にはみどりいっはいの自然豊かな西木村を流れくんだり、桜堤で有名な角館を過ぎると玉川に合流します。つづいてその流れは大曲付近で本流の雄物川に合流します。雄物川は長さ約133キロメートル秋田平野から日本海に注ぐ、秋田県を代表する大川です。

はる かわべ 春の川辺へでかけてみよう

かわ しぜん
川には自然がいっぱいだ

はる
春になるといっせいに草花が芽を出し

かわそこ いし した
川底の石の下などにひそんでいた

さかな げんき うご
魚たちも元気よく動きはじめる

かわそこ み あんぜん
川底がはっきり見える安全な川へ

でかけてみよう。いきいきした

であ
春に出会えるよ

い さき かなら
でも、行き先は必ず

いえ ひと せんせい
家の人か先生に

い
いましょうね

オーイ
きみたちもおいでよ
なにかいるよ

ささぶね

しゅしん
いい写真が
とれそうだ

おべんとう
どこで
たべようかな

くさのはっぱで
おめんができた

このはなは
なにかしら

ワアー

あーら
おもしろい
かおしてるわね

わたしは
アゲハチョウの
ようちゆう
幼虫なんだから
ばかにしないでよ



〇月〇日 (時から 時)

場所〇〇川

みつけたもの

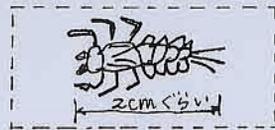
①生きもの

- ・メダカ 2cm ぐらい
- ・オタマジャクシ 2~3cm
- ・-----

②植物

- ・タンポポ
- ・ツクシ
- ・-----

スケッチ(みつけたものの系)



きょうのかんそう

- ・すいせい こんちゆうをみつけたが、名前がわからなかった。

しらべたいこと

- ・こんちゆう 図かんで名前をしらべたい。



きみたち
あそぶのはいいけど
しぜんを
よこすなよ

あとで
しらべて
みようよ

かんさつ
ぼくは観察ノートを
つけているんだ。
みんなもつけるといいよ
こんどくる時の参考
になるんだ

むし
この虫は
なにかしら

- 深いところや危険なところには近づかないようにしましょう。
- 虫に刺されたり、指を切ったりしないよう服装にも注意しましょう。

サワガニ (エビ目サワガニ科)

わたしたちサワガニにあいたければ、すんだ
水みずが流ながれる上流じょうりゅうにきてよ、川底かわぞこの砂すなや小石こいしや落
ち葉おなど、すけて見みえるようなところだよ。

きれいな水みずにしかすまないカニは、サワガニ
だけなんだ。わたしたちはよごれた水いでは生き
てゆけないんだ。

だからサワガニはきれいな川かわの指標種しひょうしゆにされ
ている、つまりサワガニがいれば、そのあたり
の水みづはきれいだという証明しょうめいになるわけだよ。下
にかかっている絵えはすいぶん大おおきく見みえるけど、
ほんとうはおとなになっても甲羅こうら (こうら) の

横幅よこばが25ミリくらいのかわいいカニなんだ。
みざて右手みぎてのハサミはさみが大おおきいのが特徴とくちょうでね、色いろは絵えの
ような赤あかっぽい茶色ちやいろのほか、白しろっぽい灰色はいいろや
黒くろっぽい紫色むらさきいろもいるよ。

色いろはちがっても上流じょうりゅうにしかすまないカニはみ
なサワガニなんだよ。

ところで冬ふゆにきても、わたしたちサワガニに
はあえないよ、上流じょうりゅうのきれいな水みづは冬ふゆになると
氷こおりのようにつめたいから、大おおきな石いしの下したなどに
穴あなをほってもぐりこみ越冬えつとうするんだ。あたたか
い春はるになれば顔かおをだすのであいにきてよ。

